

## 令和7年度 県立結城特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆安全・安心な教育環境と豊かな心を育む教育を推進する学校</li> <li>◆一人一人の障害の状態等に応じた指導の一層の充実を図る学校</li> <li>◆学校教育活動全体をとおしたキャリア教育を推進する学校</li> <li>◆地域における特別支援教育のセンターとしての役割を深める学校</li> </ul>		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
○地域と連携した防災教育、栄養教諭、養護教諭等と連携した健康教育、家庭と連携した健康プロジェクト等を行い、健康の保持や体力の向上に努めることができた。自らの身体に関心をもち、進んで体を動かす習慣が身につくようにしていく。	1 安心して学べる教育環境	①健康の保持増進のための実践力の育成 ②地域や関係機関と連携した安全能力の育成 ③児童生徒が互いに認め合い励まし合う集団づくりの推進	A
○教科の見方、考え方を働かせるような発問の工夫をすることで、児童生徒の多様な考えを引き出し、身につけたい力を意識した指導の工夫をすることができた。次年度の指導に引継ぎ、系統的な指導ができるようにしていく。	2 学習活動	①一人一人の状況に応じた系統的な指導の充実 ②学習のねらいに応じた ICT（タブレット端末）の活用の推進 ③主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の実施	B
○地域と連携した教育活動を通して、自己肯定感、自己有用感を育むことや、憧れる自己イメージを獲得することができるようにした。将来の進路選択につながる学びを充実させていく必要がある。	3 キャリア教育	①小学部段階からの系統的なキャリア教育の推進 ②自己理解を深め、主体的な進路選択を促す指導の工夫 ③地域や企業と連携した教育活動の充実	B
○特別支援教育の理解促進のため、地域の特別支援教育の現状と課題について、関係機関と年間3回協議を行った。課題の解決のための施策を検討し、地域の特別支援教育の専門性の向上に取り組んでいく。	4 センターの機能	①幼保、小・中学校、高校への相談支援体制の充実 ②専門家や地域の関係機関との連携強化 ③地域への特別支援教育の関する積極的な情報発信	A
○学校行事の目的の整理や協議内容の事前調整により業務の効率化を図ることができた。ICT機器等を活用し、教材教具や情報の共有化に取り組んでいく必要がある。定期的なコンプライアンス意識を高める研修を継続していく。	5 働き方改革 コンプライアンス確保	①教員のパフォーマンス向上を図る効率化の促進 ②目的を共有し、支え合う組織力の向上	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価 成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	・安全・安心な教育活動を行うための学校体制の充実	・危機管理意識の向上のための安全・安心に係る計画的・実践的な訓練・研修を実施する。	1-①②	○外部専門家を講師として、学年始休業日に緊急時対応訓練を実施し、危機管理に係る実践的な意識を高めることができた。 ●安全・安心に係る校内の連携体制をさらに高めていくことが必要である。 ◇時期や内容を考慮した実践的な訓練により、臨機応変な連携体制がとれるよう危機管理意識の向上を推進していく。
	・地域や関係機関と連携した学習活動の充実	・地域と子どもたちの学びを深められるよう協議し、実践する。	3-①② ③	○地域の方を講師に招いた授業、生徒による地域貢献活動等をさらに深める取り組みをすることができた。 ●地域と相互の理解促進を深めていく必要がある。 ◇地域や社会と連携・協働し、学びの充実を図っていく。
教職員の 育成及び 指導・監督	・児童生徒の学びを深める授業改善と学習評価の充実	・評価に関する実践事例を蓄積し、共有する。	2-①③	○見方・考え方を働かせた授業づくりにつながるよう、観点別評価の事例について集約し、共有することができた。 ●観点別評価の視点の整理を行っていく必要がある。 ◇児童生徒の様子を適切に評価することができるよう授業改善の研修を継続していく。
対外活動	・本校の教育活動に係る理解促進	・学校公開やホームページをとおして、本校の教育活動の情報発信を行う。	4-③	○学校公開、学校説明会等での本校の取り組みの発信と高等部見学会での授業体験を計画し、実施することができた。 ●ホームページの構成の工夫や体験活動の導入等、情報発信の工夫を継続していく必要がある。 ◇教育的ニーズを踏まえた指導や支援について、わかりやすく伝える工夫をしていく。
	・相談支援体制の充実	・地域の実態を適切に把握し、適切な支援について、関係機関と協議する。	4-①②	○適切な学びの場の検討について検証する機会を設定し、地域の特別支援教育の現状と課題について、共有することができた。 ●地域のニーズに応じた研修等を計画し、地域の特別支援教育の専門性の向上を図っていく必要がある。 ◇特別支援教育推進体制充実事業と連動させ、市町が特別支援教育の専門性を高めることができるような取り組みを検討していく。
コンプライ アンス確保	・人権尊重の視点に立って、個に応じた適切な支援の充実	・人権尊重の視点に立った支援のための、児童生徒への言葉かけについての研修を実施する。	1-③ 5-②	○児童生徒への言葉かけについて、効果的な言葉かけを共有し、小グループで話し合う機会を設定することができた。 ●人権尊重の理念を深く認識する機会を継続してもつ必要がある。 ◇人権に配慮した環境づくりを推進していく。
	・目的を共有し、支え合う組織力の向上	・職員間の連携が図るための、目的や目標を共有する研修を設定する。	5-②	○小グループや学年での話し合いの結果を共有する機会を設定することができた。 ●教育活動の充実のため、同僚・協働性を高めていく必要がある。

				◇目的やお互いの考えを共有することで、協働して生き生きと働ける職場づくりを行っていく。
働き方改革	・業務の効率化の推進	・教材等を集約し、相互に活用したり、校務分掌業務のマニュアル化を推進する。	5-①	○ICTを活用した業務の効率化や環境の整理、分担の見直し等の一覧を作成し、業務の精選について共有することができた。 ●引き続き、業務の効率化、見える化を行っていく必要がある。 ◇精選できた業務を共有しながら、さらにできることを検討していく。
ICT活用	・学習のねらいに応じたICT機器の活用方法の工夫	・授業での効果的なICT機器の活用事例を共有する。	2-①②	○ICT機器で自身の考えを言語や行動として表現したり、他者の考えや操作を参照して理解を深めたりすることができた。 ●個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実のために活用方法を工夫する必要がある。 ◇ICT機器を操作して、思考を深めたり、表現したりできるようにしていく。

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない